



OTC薬を上手に使おう…合う薬・合わない薬③ 鼻炎薬

「合わない薬」を避け「合う薬」を選んで、セルフメディケーションを上手におこなうためのポイント

- ① 薬を服用(使用)する人の体質に合っているかどうか
- ② 薬を服用(使用)する人の症状(病気)に合っているかどうか

3月に入ると、スギ花粉シーズンはピークを迎えます。いまや、4人に1人が花粉症といわれていますので、シーズンには社会的影響も無視できないようです。花粉症対策としては、基本原則は花粉が粘膜に触れるのを防ぐこととされ、マスクやメガネの着用や外出を避けることが推奨されていますが、花粉症で仕事や学校を休むということはあまりないのではないのでしょうか。ではどう対処すればいいのでしょうか？

シーズンに入ったら医療機関で症状を抑える薬を飲み始める人もいますが、多くの方がひどくなってからOTC鼻炎薬(市販薬)を服用しています。OTC鼻炎薬には人によっては使用してはいけない成分が含まれていることはこれまでも取り上げてきました。今回は「合う薬・合わない薬」という視点から鼻炎薬を取り上げてみます。

処方せんなしで買えるOTC鼻炎用内服薬にはいろいろありますが、含まれる成分によって大きく2種類に分けられます。どちらの薬にも上のポイント①及び②に関係する注意が必要ですが、特にポイント②に関して「使用してはいけない」の注意がある成分を含むものがあります。薬を購入するとき、まずパッケージの表示をよく見てください。次のような記載があります。

<してはいけないこと> (守らないと現在の症状が悪化する)

次の人は服用しないでください

- ・ 次の診断を受けた人：高血圧、心臓病、甲状腺機能障害、糖尿病

該当する成分は「プソイドエフェドリン塩酸塩」。つまり「高血圧、心臓病、甲状腺機能障害、糖尿病」の人は、プソイドエフェドリン塩酸塩を含む鼻炎薬を飲んではいけないということです。理由は、プソイドエフェドリンという薬は交感神経を刺激して興奮を起こし、血圧を上げ、心臓をドキドキさせ、エネルギーを消耗させます。また、肝臓で糖分を作り血糖を上げるのです。現在、上記の病気で治療を受けている方は大勢います。実際に薬を選ぶときには、自分に合う薬かどうか見きわめるところが大事です。パッケージの表示を確かめ、分からないことは薬剤師等に聞いてください。そして、自分に合う薬の名前を正確に覚えてください。同じメーカーから似たような名前の薬が出されており、ちょっと違っただけで成分が異なるものがあります。例を挙げてみましょう。

<プソイドエフェドリンを含む>

コンタック600プラス
 コルゲンコーワ鼻炎ジェルカプセル
 パブロン鼻炎錠S

<プソイドエフェドリンを含まない>

コンタック600ファースト
 コルゲンコーワ鼻炎持続カプセル
 パブロン鼻炎カプセルZ

コンタック600、パブロン鼻炎薬など頭の方だけ覚えてしまうと、合わない薬を選んでしまうことがあります。

